

第4回検討会での議論のポイント

令和3年1月

内閣府政策統括官（科学技術・イノベーション担当）



※赤字部分：特に第5回で対応している観点

第4回検討会議での主なご意見	対応の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ● 現時点の応用基礎レベルのスコープ案は、データサイエンス教育の要素に偏っているように見受けられるため、AIの要素を充実させなければ望む人材の育成には繋がらない。 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 「<u>応用基礎レベル</u>」のスコープについて、<u>これまでご議論いただいた内容を踏まえて合意</u>する。
<ul style="list-style-type: none"> ● PBLの取り扱いについて、応用基礎レベルでは必須ではないとの意見も出るも、AIによって物事がどのように回っているか学ぶためには認定要件に組み込むべきとの考えも再確認された。 	<p>※学生の属性によって異なる学修目標に対応するべく、<u>履修の仕方(学修方法の幅)については認定制度の認定要件の具体化の中で示すこととする。</u></p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 応用基礎レベルのスコープに関しては本日いただいた意見を踏まえた事務局修正案を基にメール審議を行うことで合意する。次回の検討会からは認定制度の認定要件を中心に議論を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ <u>認定制度の認定要件を具体化</u>する。